Press Release

報道関係者各位

※永田クラブ、文部科学記者会、厚生労働記者会および
総務省記者会にもお送りしています。

Save the Children

情報解禁日：2020年3月19日(木)午前0:01

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
http://www.savechildren.or.jp/

国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン
【記録集発表】災害時に子どもたちが果たした役割の記録
～2018 年西日本豪雨の経験から～

子ども支援専門の国際 NGO セーブ・ザ・チルドレンは、2018 年(平成 30 年)に起こった西日本豪雨の復興支援の一環として、災害時に子どもたちが感じたことや行動したことをまとめた記録集**『災害時に子どもたちが果たした役割の記録～2018 年西日本豪雨の経験から～』**を発表します。本記録集には、岡山・広島・愛媛・兵庫・宮城県の子ども 224 人と大人 36 人から寄せられた体験談や、同各県で実施した子ども 25 人と大人 7 人へのインタビュー、また、防災教育などにおける活用事例、防災や小児科医といった専門家による講評、災害時の子どもの権利・子ども参加の視点からの防災・復興計画への提言などを盛り込んでいます。

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録～2018 年西日本豪雨の経験から～」
http://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/yakuwari2020.pdf

≪体験談募集概要≫

■募集期間：2019 年 6 月 10 日（月）～9 月 10 日（火）
■対象地域：岡山県、広島県、愛媛県、ほか全国
■対象者：西日本豪雨などの災害時に何か活動をした（または、しようと思ったけれどできなかった）小・中・高校生世代の子ども（災害時に高校生だった方も可）。また、子どもたち（小学生未満も可）の行動を見た大人の方。

≪都道府県別投稿集計結果≫

■小学生 20 件（岡山県：6 件、広島県：12 件、愛媛県：2 件）
■中高生世代 204 件（岡山県：101 件、広島県：7 件、愛媛県：4 件、兵庫県：88 件、宮城県：4 件）
■大人 36 件（岡山県：26 件、広島県：7 件、愛媛県：2 件、兵庫県：1 件）　計 260 件

≪インタビュー≫

【岡山県】小学 6 年生（倉敷市）、大学 1 年生と保護者（総社市）
【広島県】小学 5 年生 2 人（広島市立矢野小学校）、大人 3 人（広島市）
【愛媛県】小学 3 年生（大洲市）、中学 1 年生（大洲市）、大人 2 人（大洲市喜多児童館）、大人（徳森児童センター）
【兵庫県】兵庫県立舞子高等学校の生徒・卒業生 16 人
【宮城県】宮城県多賀城高等学校の生徒 3 人　計 32 人

≪手書き投稿用紙の一部（記録集より抜粋）≫

■岡山県

②なぜ、それをやろうと思いましたか？　（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）

周りはお年寄りばかりなので情報仕入れや体力仕事は若者の自分達がしなければならない状況だった。

③やってどう思いましたか？　（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください。）

町内の状況写真をtwitterを通して必要な人に届けられたので良かった。

17才（高校3年生）

■広島県

⑤やってみて、気づいたことや他の人に伝えたいこと、これから大切にしたいことがあれば教えてください。

災害はあってしまったら、しょうがないしまず命を守らないといけないけど、みんなで協力してできるかぎり助け合ってほしいです。

11才（小学５年生）

■愛媛県

②子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？（あなたや周りの大人に与えた影響など。）

びっくりしました。私は自分のことばかりで全く余裕がなく自分がやらなくてはと思っていた。助けてもらえると思ってなかった。すごく心があたたかくなって、家の片付けで助かっただけでなく、私の気持ちも軽くしてもらえた。助けてもらっていいんだと心が解放できた。

40代

■兵庫県

②なぜ、それをやろうと思いましたか？　（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）

私の住む神戸の町も震災の時にたくさんの方のボランティアや支援があって、助けていただいたので少しでも困っている町の役に立ちたいという気持ちで始めました。

③やってどう思いましたか？　（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください。）

私がボランティアに行った家の方が喋りたいたり、災害時の状況を話してくださったりして、ボランティアは町の復興のためだけで行くのではなく、現地の方の体調面に気がついたり、精神面の支えになったりすることもできると知ることができました。

17才（高校３年生）

≪「災害後の子どもたちの声に学ぶ」工学院大学教育推進機構　准教授　安部芳絵氏（記録集より抜粋）≫

「災害のあとに子どもたちがしたこと／できなかったことを記録に残すことについては、インタビューに協力してくれた全員が重要であると答えた。記録を読んだ人が次に動くきっかけになるのではないかというのは舞子高校の高校生たちであった。（中略）まび記念病院で被災した AH さん（大学 1 年生）は、「過去の歴史を知ることは未来にもつながることなので、しっかり自分たちが住んでいる地域の過去の災害記録を知って、これからの将来に SNS を活用したりして発信していくことって大事だと思います」と語った。（中略）この記録が、家庭や学校・地域で子ども参加の防災や復興の契機となることを願っている。」

＜セーブ・ザ・チルドレン概要＞

セーブ・ザ・チルドレンは、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現された世界を目指して活動する国際 NGO です。1919 年にイギリスで設立され、現在、世界 120 ヶ国で子ども支援活動を実施しています。日本では 1986 年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設立され、国内外で活動を展開しています。

■西日本豪雨緊急・復興支援についてはこちら http://www.savechildren.or.jp/lp/2018hr/

取材のお申し込みや、本件に対する報道関係の方のお問い合わせ
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　コミュニケーションズ部広報　太田
TEL：　03-6859-0011 Mobile：080-2568-3144 E-mail: japan.press@savethechildren.org